

「名古屋港水族館の機能向上に向けた基本構想(素案)」に対する意見募集の結果

名古屋港管理組合は、令和6年11月20日(水)に「名古屋港水族館の機能向上に向けた基本構想(素案)」を発表し、名古屋港管理組合ホームページの掲載等を通じて、広く皆様のご意見を募集しました。

貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。

ここでは、お寄せいただいた主な意見の概要と、それに対する名古屋港管理組合の考え方をご紹介させていただきます。

1 意見募集の期間と件数

(1)募集期間

令和6年11月20日(水)から令和6年12月19日(木)

(2)意見総数

57名412件

(3)集計方法

1通のなかにある、ご意見と考えられる部分を件数としてカウントし、同様の趣旨と考えられるご意見については、要約の上、まとめて「ご意見(概要)」として掲載しています。

ご意見(概要)			名古屋港管理組合の考え方
はじめに			
		・ ガーデンふ頭再開発に併せ、新たに水族館施設を建設し、移設後、跡地にホテルやターミナル施設等を建設し、利便性を高め、機能向上してはどうか。	これまでに建物の健全度調査を行っており、適切な維持管理を継続すれば、今後30年程度は良好に活用ができるとの結果が出ております。この結果などを踏まえ、既存施設を活用した機能向上を行っていくこととしました。 既存施設を有効活用する旨追記いたしました。
第1章 名古屋港水族館の現状			
		・ 「広大なプールでシャチやイルカなどが泳ぎ、ジャンプする姿を見て生命の力強さを感じたり」とあるが、人為的なコマンドによる、本来海では行わないような高さのジャンプが生命の力強さではない。不自然に命じられたパフォーマンスを見て、娯楽として楽しませることからは、思い切って離れるべき。動物園の4つの機能として挙げられてきたものも、見直しが必要ではないか。	水族館の4つの役割(種の保存、教育・環境教育、調査・研究、レクリエーション)については、公益社団法人日本動物園水族館協会により定義されたものであり、同協会に加盟する、本水族館はこの4つの役割を果たすための取組を行っております。 また、本水族館は、同協会が定めるアニマルウェルフェア規程を踏まえて、飼育管理する動物における動物福祉の向上に取り組んでおります。 本水族館において、パフォーマンスは演示展示(行動学的展示の一手法)として、飼育生物の能力や生態を分かりやすく説明する教育的な手法として取り入れております。 今後も生き物が常に生き生きと健康な状態を維持できるよう心がけてまいります。

	・ シャチやイルカを近くで見ることができ、迫力があって良かった。 ・ イルカショーを水中から観られるのは他にないと感じた。 ・ マイワシのトルネードが美しかった。 ・ ペンギンは4種の特徴の説明などがあり分かりやすく、伸び伸びと自由に動いていて良かった。 ・ 骨格標本が展示してあるコーナーは、見えにくいところも見やすく展示されていて良かった。 ・ 水中トンネル水槽や深海魚のコーナーが良かった。 ・ 赤道の海の異国感が良かった。	今後とも、魅力ある水族館を目指してまいります。
	・ シャチやイルカのパフォーマンスがダイナミックで楽しく、海の生き物に興味を持つ良い経験となった。 ・ 教育であっても、パフォーマンスは廃止するべき。	鯨類に関する各プログラムについては、多くのお客様に愛され、教育的な意義を持つものであると考えております。引き続き海洋生態系の重要性や環境保護の意識を高めるための活動を続けてまいります。
第2章 名古屋港水族館を取り巻く社会動向		
	・ 「生物多様性国家戦略 2010」が挙げられているが、令和5年3月31日に「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定されており、現行の生物多様性国家戦略は、このバージョンである。誤解を生まないよう、修正もしくは追記するべきである。	環境省が策定しました「海洋生物多様性保全戦略」は「生物多様性国家戦略2010」に基づき策定されたという理由で、当該箇所では「生物多様性国家戦略2010」をあげております。 なお、本文中、未記載であった策定期間と現行の生物多様性国家戦略について追記いたしました。
	・ 素案に「追い込み漁によるイルカの入手を不可としました。」とあるのは評価できるが、概要版にこの記載がない。	概要版は内容を抜粋して記載しております。
第3章 名古屋港水族館の課題と機能向上の必要性		
1 施設の課題		
	・ 擬岩の割れや北館2階プールからの漏水が目立つことから、機能向上よりも、安全面での配慮を優先させるべきだと思う。 ・ バックヤードツアーに参加した際、暗くエアコンがないことに驚いた。働く職員の環境も整えてほしい。	P25「3 機能向上により得られる効果」の『やさしい水族館』を実現するため、安全面や働く職場環境などに配慮しながら、機能向上に取り組んでまいります。
	・ しおかぜ広場に鯨類用のバックヤードプールを造り、北館の動物達を移動させたうえで、北館プールの全面改修を行ってはどうか。	P20「1 各エリアの新たなイメージ」の具体化につきましましては、同構想の実現に向けた基本計画のなかで検討してまいります。

2 館内環境の課題		
	・ 休日は混雑するため、混雑緩和につながる施策があるとよいと思う。 ・ オムツ替え台や授乳室がきれいで広いとうれしい。 ・ エレベーターが広くて乗りやすいとうれしい。	P25「3 機能向上により得られる効果」を実現し、さまざまな人が何度でも訪れたい水族館を目指してまいります。
	・ 設備の改修について、ペンギン以外の生きものへのエンリッチメントや福祉の向上について具体的な計画が書かれていない。魚類やウミガメなども小さな水槽に入れられており、改善が必要なはずである。全体的な見直しを掲げるべき。 ・ 生物の飼育環境を自然環境に近づけることが義務だと思う。	設備の環境やお客様への安全・安心にも配慮しつつ、皆さまに愛され続ける施設づくりを目指し、日々の飼育管理や展示環境の改善に努めております。 引き続き、動物福祉や飼育環境にも配慮しつつ、教育的かつ楽しく学べる施設の提供に努めてまいります。
3 展示の課題		
	・ 来館者アンケートで「ふれあい」「体験」、もっと展示生物との距離感を近くしてほしいなどという意見が多かったとしても、動物福祉の観点から、そのまま従うことは避けるべき。人の興味を満たすことには重点が置かれているが動物への配慮という点に力が入っていないのは、おかしい。	社会教育施設として、動物福祉に配慮し、生物に親しむことができる水族館を目指してまいります。
	・ 動物福祉の課題として最も大きいのは、鯨類の飼育を続けるのかどうかの点である。基本構想であるなら、まずは鯨類の飼育・繁殖・パフォーマンスの廃止を目標として掲げるべき。	鯨類に関する各プログラムについては、多くのお客様に愛され、教育的な意義を持つものであると考えております。引き続き海洋生態系の重要性や環境保護の意識を高めるための活動を続けてまいります。
	・ 現在の動物福祉に配慮した飼育基準に満たない環境があるなら、早急に基準を満たすことに重きをおくべき。 ・ 日本の動物福祉は遅れているため、世界基準の動物福祉の意識をもってほしい。 ・ 動物の休憩時間を作るなど、動物にとって居心地の良い空間にしてほしい。	現在の名古屋港水族館は、公益財団法人日本動物園水族館協会（JAZA）が推奨する飼育基準が定められる前に整備されておりますが、今後機能向上を行うにあたっては、現在の動物福祉に配慮した、JAZAが推奨する飼育基準を満たす、生物が健康で生き生きと暮らせる環境を整えてまいります。
4 運営の課題		
	・ 少子高齢化なので、老若男女が楽しめる、来館者増加策が必要だと思う。 ・ 子どもに特別な体験をさせてあげられるような催しがあると良い。 ・ 大人向けのイベントなど、行きやすいイベントや魅力ある期間限定のイベントがあると良い。	本水族館を取り巻く社会動向を踏まえ、P14「4 運営の課題」に記載した各課題について検討を進めてまいります。

	・ 十分立派な施設なので、プロモーションを充実させるとよいと思う。 ・ 水族館の営業を縮小すれば、経費は抑えられると思う。	本水族館を取り巻く社会動向を踏まえ、P14「4 運営の課題」に記載した各課題について検討を進めてまいります。
5 機能向上の必要性		
	・ 「野生生物・地球環境保全」について子供たちがどう学んでくれるか、しっかり検討してほしい。	本水族館が野生生物の保全や地球環境の保全の大切さをP25に記載の「楽しく学ぶ」ことのできる場としての役割をより果たせるよう、検討を進めてまいります。
	・ 生物たちがより良い環境で暮らすために、設計・制作から信頼できる業者を選定し、安全を確保してほしい。 ・ 環境教育や動物福祉を考えた施設改善は素晴らしい目標だと思う。	水族館の役割を果たしていくなかで、地球環境保全の大切さを伝え、動物福祉にも配慮した施設となるよう、専門家などの意見も反映しながら、機能向上に取り組んでまいります。
第4章 名古屋港水族館の今後のあり方		
2 機能向上の考え方		
	(2) 環境への配慮	
	・ 環境負荷低減とあるが、現状どれだけ負荷をかけているかの言及がなく、具体的な数値目標がない。 また、電力などのエネルギー消費量については問題意識があるようだが、そもそも展示のため、もしくは餌とするため、生きものを環境中から奪い続けることそのものが環境負荷である。その点について、どのような方針をとるのかを明確にするべき。	今後も生き物たちが健康に生活できるよう、皆さまに愛され続ける施設づくりを目指し、環境負荷低減に努めてまいります。
	(3) 多様なニーズへの対応	
	(生物との距離感に慎重な意見) ・ 「ペンギンなどの生物をより近くで観覧するなど、生物への親しみと、心の距離が近づくことができるような工夫を行います。」とあるが、この方向性は止めるべきであり、削除をお願いしたい。 ・ 餌やりやふれあい体験は野生生物との距離感を誤認させるため廃止してほしい。 ・ 「近づく」「ふれあう」という取り組みではなく、動物の自然な姿や生態を学ぶ機会を提供するべきである。	「生物との新たな距離感」につきましては、動物福祉に配慮した適切な距離感を保ちつつ、様々な角度から生物を知ることにより、今まで以上に生物に親しみを持ち、心の距離感が近づくことができるような工夫により生物を身近に感じられる方策を、事業化を進めていく中で検討してまいります。 「ペンギンなどの生物をより近くで観覧する」を「適切な距離感を保ちつつペンギンなどの生物の様々な面を知るなど」と修正いたしました。

	(生物との触れ合いを大切にする意見) ・ 以前はイルカと触れ合えた記憶があるので、復活してほしい。 ・ 動物とのふれあい体験や、えさやり体験があると良い。 ・ 動物との距離感を近くしてほしい。 ・ 生物との新たな距離感は面白そう。エンタメは入口で、命の多様性が感じられると良いと思う。	「生物との新たな距離感」につきましては、動物福祉に配慮した適切な距離感を保ちつつ、様々な角度から生物を知ることにより、今まで以上に生物に親しみをもち、心の距離感が近づくことができるような工夫により生物を身近に感じられる方策を、事業化を進めていく中で検討してまいります。
	(4) 新たな機能「つなげる」	
	(「役割をつなげる」についての意見) ・ イルカの繁殖など、名古屋港水族館ならではの強みを生かし、子どもたちが誇りに思う水族館にしてほしい。 ・ 東山動物園を参考にし、常に新しい発見がある展示やイベントを企画してほしい。	P18「役割をつなげる」の考え方により、本水族館ならではの強みを生かせるよう検討してまいります。
	(「多様な主体とつなげる」についての意見) ・ 年間パスポート購入の特典で、ポートビル展望台無料券を付ける等、連携を図ってはどうか。 ・ 他園館との交流や、連携したイベント等を開催してほしい。 ・ 他園館と連携し、遠方の園館で飼育されている希少な生き物を誘致するか、デジタルで展示してほしい。 ・ 他園館とのセット割や、アトラクションの連携があると面白いと思う。	P19「多様な主体とつなげる」の考え方により、多様な主体との連携を検討してまいります。
	(5) 環境保全への意識の育み	
	・ 海洋プラスチック問題についての言及が少ない。飲食コーナーやお土産などから、極力プラスチック製品（特に使い捨てプラスチック）を排除する方針とし、自ら行動をもって来場者を教育することを行動目標として掲げるべき。	P19「(5)環境保全への意識の育み」を実現するため、参考とさせていただきます。
第5章 名古屋港水族館の新たな施設概要		
	1 各エリアの新たなイメージ	
	しおかぜ広場の活用について	
	・ ケープペンギン舎の隣で、新しい生物を飼育してほしい。	しおかぜ広場の有効利用として、動物福祉に配慮した公益財団法人日本動物園水族館協会が推奨する飼育基準面積を満たした新しいペンギン飼育展示や繁殖研究を行うエリアとすることを想定しております。

	・ スタジアムは寒く風が強いため、室内に弁当を食べる場所を増やしてほしい。 ・ しおかぜ広場に、屋内で魚の水槽を見ながら食事できる場所があると良い。 ・ 屋内で座ってお弁当を食べられるスペースが少ないため、食事できる場所があると良い。	しおかぜ広場の有効利用として、室内飲食スペースを併設し、天候を気にすることなく団体でも利用できる休憩や飲食を楽しむ空間となるよう、利便性の向上に取り組んでまいります。
日本の海エリアについて		
	・ 日本の海を、自然を切り取ったようなエリアへリニューアルしてほしい。	日本の海で生息する水族を通して、野生生物の保全や地球環境保全の大切さを感じられる空間を目指してまいります。
飲食スペースの併設について		
(飲食スペースの併設に前向きな意見)	・ カフェスペースを充実させ、お茶しながら水槽を見たい。 ・ 食べながらゆっくり見ることができると良い。 ・ おいしいレストランを併設してほしい。	居心地のいい滞在型的水族館を実現するため、利便性の向上を図りながら、現在の本水族館の魅力である部分が損なわれる事の無いよう、機能向上の実現に向けて検討を進めてまいります。
(飲食スペースの併設に慎重な意見)	・ 北館水中観覧席は名古屋港水族館の一番の魅力なため、カフェやフードコートなど、お金を払わなければ入れないような場所にはしないでほしい。 ・ 北館の水中観覧席の一部を飲食スペースにするのは、衛生面から反対。	
全館 水族館全体について		
	・ 北館1階のエレベーターが少ないため、増設してほしい。 ・ 水槽前の鑑賞スペースを拡充してほしい。 ・ 大きな展示水槽は良いが、他の水槽は一番前の人しか見られないため、皆が見ることができる展示方法・巡回経路があるとうれしい。 ・ じっくり見て楽しめる空間になると良い。 ・ 座って見学できるコーナーがあると良い。 ・ 子供の遊び場や、子供の休憩スペースがあると良い。 ・ 大人の通路と子供の通路を分けてほしい。 ・ せっかく海に面しているため、海自体を活用した展示方法を検討していただきたい。	各エリアの施設・設備についての具体的な方策については、第4章の機能向上の考え方で示した、「施設の機能のあるべき姿」「環境への配慮」「多様なニーズへの対応」「新たな機能「つなげる」」「環境保全への意識の育み」を踏まえ、第5章「機能向上により得られる効果」を実現することができるよう、検討を進めてまいります。

2 展示・空間演出		
	(教育展示に関する意見) ・ 博物館要素を拡充してほしい ・ 幅広い年代が学べる要素があるとよい。 ・ 生物の生態や成長過程の解説など、水族館を通じて海や地球環境を学べると良い。 ・ 個々の生物のストーリーや、飼育員さんの苦労や裏側などがわかるとよい。 ・ 飼育員さん等が動物について教えてくれるコーナーがあると良い。 ・ 魚の部位の機能性や生物の不思議を、絵等を使用して面白おかしく説明する等、もっと生体の事を知りたくなる展示があると良い。 ・ 生命の進化の過程と、その進化によって得た機能が現在の技術に転用されている例などがあれば知りたい。 ・ 環境への取り組みは重要だが、学習要素が強いと子育て世代としては魅力に思えないため、楽しい体験ができる前提で学習要素があると良い。 ・ 体験型のコンテンツを拡充してほしい。 ・ 名古屋港水族館での研究成果や展示物を容易に閲覧・利用できるネットサービスか、展示を設置していただきたい。 ・ 展示の生き物について知りたくなった時に見られる、図書館やサイネージのコーナーがあると良い。	新たな展示空間演出につきましては、館内ルート案内や多言語化といった、解決すべき課題の解決に加え、標本・模型・デジタル技術を活用し、楽しく学び、五感に訴えかけ、没入感に浸ることができる独特な魅力ある展示・空間演出の方策を、事業化を進めていく中で検討してまいります。
	(館内環境に関する意見) ・ 迷いやすい箇所があるため、子どもや外国人向けに、進路方向をわかりやすくしてほしい。 ・ ショー等を見逃してしまうため、何時に行ってもどう回るとうまく観られるのか、案内があると良い。 ・ 各コーナーの混雑状況が分かると良い。	
	(デジタルに関する意見) ・ 改修前の名古屋港水族館施設を写真・映像・VR等で残し、展示に活用してほしい。 ・ インタラクティブな演出など、最先端のデジタルを活用した新しい展示・空間演出があるとよい。 ・ AIを使って、動物の声を人間の言葉にして会話するなど、ほかの水族館にはない体験ができるとよい。	

	・ VRで、現実では体験できないイベントを増やしてほしい。 ・ ショーを見逃した方向けに、録画映像が見られると良い。 ・ ドローンやプロジェクションマッピング等を駆使した、壮大なショーがあると良い。 ・ デジタルはありふれて疲れた。子供は家の中でスクリーンタイムが長く、外に行ったときはリアルを体験できる場を提供してほしい。 ・ 水族館はデジタルよりも、よりリアルな魚との距離感や自然状態の観察が求められていると思う。	新たな展示空間演出につきましては、館内ルート案内や多言語化といった、解決すべき課題の解決に加え、標本・模型・デジタル技術を活用し、楽しく学び、五感に訴えかけ、没入感に浸ることができる独特な魅力ある展示・空間演出の方策を、事業化を進めていく中で検討してまいります。
	(その他) ・ 展示やショーでも多言語対応してほしい。 ・ 水中で泳いでいる音が聞けるとよい。 ・ 改修後も現在の水族館を見ることができる施設があると良い。 ・ 水族館は水槽に生き物を閉じ込めているという印象を与えているため、保護・愛護・福祉に関する取り組みを積極的に発信した方が良い。	
	・ 「生物をもっと近くで観察できる方策が必要」は削除する。 ・ 近い距離は動物にとって迷惑であると思う。	「生物をもっと近くで観察できる方策が必要」を「生物の様々な面を知ることのできる方策が必要」と修正いたしました。
その他		
今後の水族館に関するご要望		
	・ シャチに関する最新情報(研究・保全情報)を紹介した展示を充実させてほしい。 ・ 新種の鯨類、絶滅危惧鯨類に関する展示をしてほしい。 ・ 飼育困難種（マンボウなど）の飼育技術を開発してほしい。 ・ ダイオウホウズキイカ関連の展示をしてほしい。 ・ 新生代鯨類各種の骨格標本を展示してほしい。 ・ 恐竜の化石標本を展示してほしい。 ・ 子供が参加できる仕掛けや、思い出に残るようなフォトスポットがあるとよい。 ・ 安くおいしいレストランを誘致してほしい。 ・ 食事の種類と質を上げてほしい。 ・ フードコーナーが混雑しているため、並ばない工夫がほしい。 ・ 気軽なカフェやかわいいお土産が増えると良い。	今後の水族館を検討するうえで参考とさせていただきます。

	・ 乱獲や養殖による生態系破壊・汚染の問題を考えれば、レストランやフードテラスで提供する食事の素材にも配慮が必要である。ビーガン対応のメニューを設けることによって、海の生きものの過剰消費について考えさせるような工夫をしてほしい。 ・ 集めたくくなるような限定グッズや、新しい技術を活用した話題性のある展示があると良い。 ・ 名古屋港水族館に行くために名古屋に行きたいと思えるような、さらなる独自性を出してほしい。 ・ 展示物や非公開標本などを館内イベントやプロモーションに活用できるようにしてほしい。 ・ 人気のないところはなくして、インパクトを強化し、SNSにアップしたい場所づくりが必要である。 ・ 印象に残る外観であると良い。 ・ Vtuberとのコラボやタイアップ企画など、通いたくなる仕掛けづくりをしてほしい。 ・ 入館料が高いため、割引制度があるとよい。 ・ 名古屋市民は入館料を安くしてほしい。 ・ 名古屋市の小学生は夏休みの宿題でSDG s フィールドへ行こう、というのがあるため、この期間だけ名古屋市民は安くしてほしい。 ・ いつ行っても内装に変化がなく飽きるため、定期的に模様替えしてほしい。非日常を味わいたい。 ・ 水族館の枠に囚われない面白さが欲しい。 ・ より清潔感のある施設になると良い。 ・ わざわざ行きたいと思うような、話題性のある施設になると良い。	今後の水族館を検討するうえで参考とさせていただきます。
新しく飼育してほしい生物についてのご意見		
	・ ジンベエザメを飼育してほしい。 ・ タコのサイズが小さいので、大きなサイズを飼育してほしい。 ・ 飼育する生き物を増やしてほしい。 ・ 世界的に珍しい生物の展示があると良い。	今後の水族館を検討するうえで参考とさせていただきます。

運営に関するご意見	
・ 開館待ちにおいて、テープ等を貼って場所取りする行為を禁止してほしい。 ・ チケットの事前購入をもっとうまく促した方が良いと思う。 ・ 業務中のトレーナーに話しかける行為を禁止してほしい。 ・ イルカやシャチのパフォーマンスから、パフォーマンスと学習を切り離してほしい。また、トレーナーと泳ぐプログラムを追加してほしい。 ・ イルカショーは説明時間を減らして、ショーの時間を長くしてほしい。 ・ イルカショーの内容を季節ごとで変えるなどしてほしい。 ・ シャチの公開トレーニングがステージの裏側であったため、もっと近くで見たい。 ・ シャチは、できる限りメインプールで展示してほしい。 ・ メインスタジアムでの座席確保をやめてほしい。 ・ 三脚、脚立、自撮り棒を使用しての撮影行為や、水槽前で座り込んで撮影する行為を禁止してほしい。 ・ ベルーガ水槽の足元の照明を明るくしてほしい。 ・ 個々のイルカの名前が分かると良い。 ・ 小さなイベントもスケジュールにに入れてほしい。 ・ 企画展や特別展が行われていない時期が多い。 ・ シネマ館で通年映像を流してほしい。 ・ トレーニング風景、餌やり、飼育員とのふれあいを積極的に配信してほしい。 ・ マイワシのトルネードは全国に先駆けて取り組んでいるため、アピールしてほしい。 ・ 大人向けのシンポジウム、飼育員の講義などを開催してほしい。 ・ バックヤードツアーがあると良い。 ・ 有料イベント開催中に、開催中のイベントチケットを持たない者を入場させないでほしい。 ・ 館内で自由に水分補給できるようにしてほしい。 ・ 南館で、閉館の20分前から警備員さんに追い立てられるため、閉館まで楽しませてほしい。 ・ カメ繁殖棟の施錠が早い。	現状の運営に関するご意見につきましては、指定管理者と共有させていただきます。

周辺施設に関するご意見		
	・名古屋港エリアのタウン情報があると良い。 ・名古屋港全体で、魅力のある街づくりをしてほしい。 ・水族館以外の、近隣施設や飲食店を充実させてほしい。 ・水族館周辺の広場などを活用できると良い。 ・名古屋港水族館に行くついでに寄れる場所が少なく、周遊しづらいため、一緒に回ることができるような、周辺施設を取り込む動きがあれば良いと思う。 ・水族館だけでなく、1日楽しめるが良い。	新たな水族館の実現にあたっては、P17記載の第4章(4)「新たな機能「つなげる」」の考え方より、周辺環境や施設との連携を図りながら、さらなる魅力向上を目指してまいります。
	・鯨類のストレスへの配慮のため、花火大会を中止してほしい。 ・交通の便はよいが、イベント等があると駐車場が混雑して不便に感じる。 ・駐車場を整備してほしい。	新たな水族館の実現にあたっては、周辺環境や施設との連携を図りながら、さらなる魅力向上を目指してまいります。
その他		
	・入り江や河口に入り込んだ鯨類の保護、研究を行ってほしい。 ・鯨類の繁殖中止と段階的な飼育の廃止。 ・イルカ展示ビジネスを終わらせてほしい。 ・円満な飼育が不可能であれば、ブルーガ飼育から撤退してほしい。 ・ブルーガの赤ちゃんが死んでしまって悲しい。原因の究明と公開をお願いしたい。 ・鯨類の飼育を廃止し、サンクチュアリへ移行するべき。 ・サンクチュアリを設置するべき。 ・野生からの搾取を止めてほしい。 ・これ以上生き物を増やさないでほしい。 ・種の保存は野生下でのことであり、水族館の飼育生物に当てはめてほしくない。 ・動物を開放する視点で基本構想を考え直してほしい。 ・野生動物を守り、生態系・生物多様性の損失を食い止め、ネイチャーポジティブを実現するかという学びを提供する場として機能向上が必要だと考える。 ・保全教育機関としての機能向上を望む。 ・保護施設として寄付を募る方が持続可能ではないか。	水族館の役割を果たしていくなかで、より良い水族館を目指してまいります。

	・ 本物の動物でなく、デジタル映像や撮影した映像を映してほしい。 ・ 生体展示ではなく、デジタル動物（ライトアニマル）を展示してほしい。 ・ 水族館の縮小、廃館も視野に入れて議論することを希望する。 ・ 生態展示を止め、水族館を廃止すべき。 ・ 命の大切さを訴える水族館になってほしい。 ・ SNSの発信が、サンタコスプレや物販の宣伝が主になっている。パフォーマンスや癒し、かわいい、を求める来場者が地球温暖化、プラスチック問題の展示をみてどれだけ自分ごとととらえ、地球環境の問題に向き合えるだろうか。むしろ動物の展示、発信が妨げになってはいないか、見直すべき。 ・ シャチのプールが遠い。 ・ 金鯪水が遠い。	水族館の役割を果たしていくなかで、より良い水族館を目指してまいります。
	・ 基本構想の内容に記載されている修繕を先行しているように感じられる。 ・ 名古屋みなと祭り開催時は、周辺の駐車場へ車を駐車させないでほしい。 ・ 花火大会時に周辺にテープを貼って場所取りする行為を禁止してほしい。 ・ 生物移送時の情報管理が杜撰だと感じたため、改善してほしい。 ・ 名古屋港水族館上空での航空機等のバードストライクによる事故が発生しないよう、安全確保に努めてほしい。 ・ 一部の人を入館制限や利用禁止にしてほしい。	今回の意見募集・趣旨とは異なりますが、関係各所と共有させていただきます。